THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學叢誌

驛遞局認可　明治十九年六月二十六日　毎土曜日發兌　第貳拾八號

此の繪の說明ハ本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十八號目次

●官報●中外新報二十六件●學藝叢談○カリー氏幼兒教育學●英語の栞（附羅馬字話し）○泰西の諺諺の直譯●列女傳○乞媼龜子（表壽傳）○羅蘭德夫人○紅蓮女史の傳●和書講義（つれ〴〵草）●稗史小說○英國小說剪燈情話（第二回續）●女紅○絹布のやぶりの法○鹿の子をのす法○柚べしの製法○色黑き人を白くなす法○髮のねばりたるを直す法○乳の出る法○綿羅紗の製法●御伽草○無腦○考物二題●古今雜話○西洋女禮一斑○古の女帶○日本女禮のあらまし（行酒飲食の部の〜き）○金言摘錄●群芳詞苑○詩歌發句數件○閨秀新品○數學答式●寄書○身体教育を忽棄す可らず○諸廣告數件

明治十九年六月廿六日

女學叢誌每土曜日發兌表

明治十九年

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候爲一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替分を本舍へ御送附可被下候

●但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○文部省令第八號の續き

第十條　各學科の程度左の如し「修身」小學校に於て內外古今人士の善良の言行に就き兒童に適切にして日理會し易き簡易なる事柄を談話し日常の作法を教へ教員身自ら言行の摸範となり兒童をして善く之に習はしむるを以て專要とす「讀書」尋常小學科に於ては假名假名の單語短句簡易なる漢字交りの短句及地理歷史理科の事項を交へたる漢字交り文高等小學科に於ては稍之れより高き漢字交り文「作文」尋常小學科に於ては假名の單語短句簡易なる漢字交りの短句漢字交り文口上書類及日用書類高等小學科に於ては漢字交り文及日用書類「習字」尋常小學科に於ては假名日用文字口上書類及日用書類(行書)高等小學科に於ては日用文字及日用書類(楷書行書草書)「算術」尋常小學科に於ては珠算を用ひ加法減法乘法除法普通の度量衡貨幣日用適切の雜題及暗算高等小學科に於ては筆算を用ひ算用數字簡易なる命位記數加法減法乘法除法分數小數比例利息算雜題簿記の概略及暗算「地理」地理は學校近傍の地形其鄉土郡區府縣本邦地理地球の形狀晝夜四季の原由大洋大洲の名目等及外國地理の概略「歷史」歷史は建國の體制神武天皇の卽位王朝の政治藤原氏の專權覇府の創立德川氏の治績王政維新外國交通貿易及世態文物人情風俗の變遷等に關し重要なる事柄及忠良賢哲の事蹟「理科」理科は果實穀物菜蔬草木人體禽獸蟲魚金銀銅鐵等人生に最も緊切の關係あるもの日月星空氣溫度水蒸氣雲露霜雪霰氷雷電風雨火山地震潮汐燃燒鏽腐敗喞筒噴水音響返響時計寒暖計晴雨計蒸氣器械眼鏡色虹槓杆滑車天秤磁石電信機等日常兒童の目擊し得る所のもの「圖畫」圖畫は自在畫及用器畫「唱歌」唱歌は單音唱歌複音唱歌「體操」體操は幼年の兒童には遊戲稍長したる兒童には輕體操男兒には隊列運動を交ふ「裁縫」裁縫には運針法襦袢單物袷等通常衣服類の縫方裁方及補綴方

◎中外新報

○明宮殿下　皇子明宮殿下には去ぬる十四日上野公園地內なる教育博物館へ又仝廿二日は高等師範學校內幼稚園へ成らせ玉ひしとぞ承はりぬ

○女子商業學校　高等師範學校附屬女子小學校の教員諸氏が發企にて今度題號の如き一校を創立せんと頻に計畫し居らる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝとの事

○學習院　同院にては此程第一高等中學校の構内を借りて教場幷びに事務所等を移轉されたり

○榮譽博士　帝國大學にては榮譽博士と云ふ一學位を置き學士の中にして最も卓絕のものへ仝位を授けらるゝ事に相成るやに聞けど如何にや

○卒業證書授與式　高等師範學校にて去る十四日体操專習科の生徒三十余名へ卒業證書の授與式を執行されしが當日は森文部大臣を始め仝省の各官吏師範學校校長教師及び生徒等二百余名の外仝校女子部教員生徒埼玉縣師範學校教員生徒等都合四百名余臨塲して種々の技術を行ひ海軍の奏樂等ありて中々盛式なりしと云ふ

○教師雇入　東京中學校にては今度英國人ジエームス、チヤベル氏を雇入れ英語の一科を設て仝科の教師に充らるゝとぞ

○土子氏　大藏屬たりし土子金四郎氏は去る十五日東京商業學校教諭(奏任五等)に任せられたり

○日本美術展覽會　本年十月十五日より凡そ七十日間佛國巴里府に於て日本美術展覽會を開かるゝ由にて其出品方を起立工商會社へ依賴なりしと云ふ

○訓盲啞院　築地の訓盲啞院にては夙に音樂科を設けて胡弓琴等を教授されしが今度またピヤノー等をも教へらるゝことに相成りし由

○米國大統領の結婚　仝結婚の事は前號にも屡々記載せし處なるが本月二日彌よ華盛頓に於てめでたく合卺式を擧行されたりと云へり

○看護婦生徒　去る十七日より東京有志共立病院にても新募の看護婦生徒數名の試驗を行はれたる由

○英語會　仝會にては去る十五日の午後六時より小石川久堅町なる植物園に於て臨時會を開かれ會員其他にて來會せるもの百余名あり中には外國婦人もこれありしが流石は英米の遊歷者等が設立されし會程ありて餘興には英語の本讀茶番等を催うされしとぞ

○月謝改定　高等師範學校附屬小學校の月謝金は從來一人前金五十錢なりしが此程七十錢に改められたり

○レビツト夫人　仝夫人は米國ボストン府の人にして今玆齡五十有余なるが世界婦人禁酒會の書記を勤めて此度仝會より撰まれて五ヶ年間世界を遊說し廣く會員を募りて益々禁酒の主義を擴張せんと此程已に我國へも渡來せられ去る十三日は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

麹町區中六番町の講義所にて山崎弘道氏通弁となり仝主義の演説をせられ仝十五日にハまた築地海岸十三番館の女學校に於て仝しく演説あり而して仝會員ハ万國の人にして其數廿万人もあり會長ハ英國政事家ジョンブライト氏の令妹にて會員中にハ有名の婦人多しと云ふ

○高等女學校　文部省總務局所屬の高等女學校にてハ來る三十日迄に次學年より入學せんとするもの〻志願書を受付けらるゝ由なり

○學術研究　理科大學敎授菊地太麓仝箕作佳吉の両氏ハ學術研究の爲め相州三浦郡三崎へ工科大學助敎授眞野文二氏ハ仝く神戸生野両所へ出張を命せられたり

○高等師範學校定期試驗　高等師範學校の定期試驗ハ本日より來る七月十日迄に執行せらるゝ筈なりと云ふ

○巡視　野村視學官ハ第一地方部東京外十縣の學事巡視を命せられ去る廿一日より巡視を始められしとぞ

○第一高等中學校　仝校にてハ去る廿一日より定期試驗に取掛られ本月中に結了せらるゝの積りなりと云へり

○英國々會解散　本月十日倫敦發の電報なりとて女皇陛下ハ國會の解散を制下し給へり尤其期日確定せすと香港日々新聞に見ゆ

○生徒募集　華族女學校にてハ來九月一日より生徒の闕を增加し初等小學第三級其他諸級に補充さるゝヿに付七月廿日を限り華士族平民の女子中相當の者凡五十名を募集せらるゝ由

○諸職工取締規則　歐米各國の例にならひ全國の諸職工取締規則を制定せらるゝ筈にて右に關する海外の書類の取調に着手せられしとの風説　（右六月廿四日絵入朝野新聞）

○八大美人の指名　今日新聞社の小野艮風氏が催しにて同社に於て昨年中催されし日本十傑の例に倣ひ今度現今東京の八大美人の指名投書を需めらるゝ由にて此適當なる指名の投書家にハ金五圓と今日新聞三ヶ月分無代價の褒賞を送る由偖其善人といふハ奥方、正妻、藝者、娼妓、處女、權妻、後家、雇女、の八種にして其〆切ハ七月三十日限りと廣告ありたり是ハ日本十傑と事替り府下數十万人中婦女の容貌を一々點撿したる後にあらざれハ以て美人と指定し難けれ共容貌の美麗なる婦人方ハ必すしも八人に止まらざるべし品行の正しき學術ある婦女にして世に知られたる者ハ全國を通じてまた幾許ありや

○毛髮の發生を防ぐ新法　無用なる毛髮の發生を防がんと從來色々の法を施せしも良結果を得す殊に鼻下或ハ頤下の鬚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を悉く抜き取るも直に發生し又赤く燒きたる小針にて髮根を燒き或ハ腐敗藥を以て腐らすが如き法もありしが何れも一時の防ぎ方にて永く續かぬのミか痕を殘すの憂あり然るに近來米國或ハ獨逸國にて專ら醫者の稱用する電氣法ハ極小なる銀針を髮根まで入れこれにカルワノ電氣を導けハ少しの痛みも感せず容易に其鬚根を絕つべし(六月廿日朝野新聞抄出)

○奇婦の奇論　アスチエーと云へる婦人ハ佛國里昂の產にて先頃米國の女醫と決鬪したる奇女なるが此程或る新聞へ婦女敎育の事を投書せり其大意ハ婦女の敎育に体操を加へ其方法ハ專ら擊劍を用ゐ世間婦女子の懦風を去り強勇の母と強健なる娘とを出して益々子孫の健康を增進する良法なり記者幸ひに賛助の榮を與へよ云々との事ありしと佛國里昂改進新聞に見ゆ(六月廿二日奧羽日々新聞抄出)

○緬甸女子の風俗　本月廿三日の官報緬甸事情中に女子風俗の事を登載されたり本紙拔萃して揭載せんと欲したれど余白なきをもて次號に讓れり

◎學藝叢談

○カリー氏幼兒敎育學

〔第十二節〕幼兒敎育　身体諸機關に關係ある事　これまでは幼兒の腦の有樣に就て說明をなしたり腦の活動の定則は總て体育上の定則にて最も敎師誘導の力らを要するところなりされども他の身体成立ちの有樣に就てもまた決して忽せにすべからざることにて若し身体虛弱なるんにハこれを強壯ならしめんこと敎師の職務內にあり發育の原素は適當の食物純良の空氣充分の日光および適當の運動なりとすその第一は全く敎師の知るところにあらずとするも第二第三は敎師の關するところなり總て幼兒は不良の空氣および不充分の日光より來る害を受け易くまて運動の足らさるときは衰弱を來たして心の運動と兩立すること能はざるものなり成長したる人にありては生活上の作用に適度の衝動を與ふること必用なりと知られたり幼兒にありては意志の地は本性の供することにして少しも間斷なく運動するは健康の發育上自然に備はりたるものを知らるゝなり故に學校に於てこの運動力を奪ふことあるときはその代りに校內あるひは校外に於て運動の時間を與へざるべからずこれ幼兒の年若きほど益々必要なることなり感受性愈々銳敏なるときは健康上の定則を犯したるより生ずるところの結果增々大なり少しにても身体の活動に不便を與へた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るより幼兒の心の活動を全く止むること屢〻ありまた幼兒は大人よりは急に健康上の變動を起し易きものなれば教師たるものはその徴候に注意せざるべからざるは云ふまでもなきことながら万一この注意を忽せにするときは幼兒の行爲を誤解することあるべし

〔第十三節〕外面に顯るゝ心體不容易の徴候　身體活動の不健康なる徴候も常にこれに注意するものには容易く知るを得らるゝも誠に幸ひなることにて幼兒の顏色も心を蔽ふところの陰雲をその儘反照する鏡面なり腦より受くる感覺は總て顏色に顯はるゝものにて心に氣輕るなる或ひは氣重もなる感激したるあるひは衰弱したる心に樂しきあるひは樂しまざる利發なる或は混迷なる激動したる或は平氣なる等は皆少しの經驗にて顏色により知ることを得らるゝなり顏色蒼白なるひは赤くなり澁面を作りあるひは微笑をなし涙啼し或ひは嘻笑し嘆息し或ひは叫ぶ等顏色の變化音聲の屈曲みな心裏の希望情緒意思等の自然の符號なり故に幼兒の顏色は幼兒教育者の磁石にして常にこの磁石の指向すところを知らんが爲めに目をその變化に注ぎまた風向を計かり暴風雨を預知すること必要なり

（未完）

◎英語の栞（附羅馬字ばなし）

○泰西の箴諺の直譯

〔甲〕㊀汝の㊁手（が）㊂持つ（で）㊃あらう㊄より㊅多く（を）㊆握る㊇一もなし

〔乙〕㊀汝の㊁船（に）㊂向て㊃あまり㊄大なる㊅汝の㊆帆（を）㊇作る㊈勿れ

MAXIMS & PROVERBS.
泰西の箴諺

（甲） Grasp no more than your hand will hold.
㊆ ㊇ ㊅ ㊄ ㊀ ㊁ ㊃ ㊂

〔意譯〕握り得らるゝより多くを握る可らず

（乙） Make not your sail too large fore your ship.
㊇ ㊈ ㊅ ㊆ ㊃ ㊄ ㊂ ㊀ ㊁

〔意譯〕船より大なる帆を造る勿れ

DAIAMONDO.

Aru kanemochi ōinaru daiamondo no iritaru yubiwa wo mochi, hito ni hokorite iikeru yō :— kore wa watakusi no chinchō suru takarade gozaru. Hitori no hito te ni tori mite, sono nise-mono naru wo siri : —kore wa makkana nise-mono dewa gozaranu ka ? to ieba, kanemochi nukaranu kaonite : —hai ! yokunisete orimasu, sareba koso chinchō itasimasu te.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

〇乞媼龜子　（表書傳）

いつの頃にや淺草觀音の邊にて路上に死去たる乞丐の男ありけり其が携へたりし面桶を撿視の人〻撿められしに一首の詩歌を彫付ありしとなん

一鉢千家飯。孤身幾度秋。冬煖車趍裏。夏冷橋下流。不空復不乞。無樂復無愁。若人間此六。明月浮水中

寢る間のみ人にかゝらぬ思ひてをうき世にかへす曉のかね

這ハこれ男兒の乞丐詩歌ハ能ぐするも果して其の行狀ハ如何ありけん思ふによも半谷の乞媼にハ及ざりしなるべし抑も乞媼龜子と呼べるハ常に京都の市中に出て物を乞ひ步行しものなるが一日三條通室町に於て黃金數多入れある所の財布を拾得たれば尋常の乞兒ならんにハ拾得たるまゝ秘置くべきに龜子ハ淸潔のものなればこれを傍なる商人の家に預け具さに今ありし狀を告げて若しも索ねて來る人あらバ何卒これを渡し給へと請ひければ商人ハ事面倒なりとて店務の繁忙しきに托せて辭りしに龜子ハ獨つぶやきて噫慘しひかな世間の人ハなせにかくまで遺せし人の憂を我身に引較べて顧みざるや情なきにも程ありと云ひたるにぞ商人も今ハろら愧しくなりて是非なく承引たり然るに幾程もなく遺失主の來りにければ之れを渡すとて龜子の事を逐一に物語るに遺失主もいたく其乞兒の身にも似す性質の淸淨潔白なるを感賞し金一兩米若干を贈りて恩に酬んとまた商人に托み偶龜子の來るを見て呼ひくこれを贈んとせしに龜子ハ頭を掉りて中々に受けすわれもし報を得んとならば初めより何しに夫の金を人に托んや自ら遺失主の來るを待ちて手より手に相渡すか左なくば踈かに懷中し去るべしと云ひて終に一句を吟じ襤褸の袂拂ひつゝみのへりもせす立去りしのバ人皆な其の潔白を稱せざるハなく龜子の名一時都鄙に嘖〻たりしと云へり其の句に云ふ「物もたぬ袂ハかろし夕すゞみ」とこれまた嘗て寶曆五年中豐後國中嶋郡池泉寺の門前に於て左の詩歌幷に俳句を遺して餓死したり乞媼の流にして其行ひ世に立優りたる者にてぞありける

漸去非人界今日昇上天掐破裴破笠曉夢寺門前

蚊にいとひ犬にくハれるかばねのな

しれしらぬうき嬉しきの果ハいま元の裸のもとの身にして

〇羅蘭德夫人

佛國の羅蘭德夫人と云へば其の名世界に高く誰々も能く知りてゐるべければ今爰に委しくはものせざるべし抑も夫人のいまだ生家に在りていづれへも許嫁せざるに當りてや夫人は若し嫁するならば哲學士の外決して嫁せざるべしと誓ひ居たるが遂に羅蘭德と云へる貴紳の夫人となられたり而して夫人は夙に民主政体の自由を復せんと熱望し國乱の起るに際して自ら軍伍に加はり冒險隊の列に入らんと請ひたるとあり其の智略材幹は申すまでもなく威儀能く人を懷服そるに足ればバギロンヂスト黨中にては人皆なこれを敬愛し軍中の精神とこそは呼ぶに至れり又夫羅蘭德の内務卿に任せらるゝや夫人は内に在て能く文書の往復を掌り

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

指令訓示一も澁滯するよなく夫をして公務を裁制せしめ能く錯誤なからしむるをもて人々卿か處斷の迅速よして且つ周到あるに驚きしがこれ皆な其實ハ夫人の手よなりたるに因れり就中千七百九十二年卿が佛王路易十六世に上りたる建議書の如きハ關係最も重大にしてこれまた夫人の手になりたりと云へり斯ゝる女丈夫にてありけれども風流の心未た全く除かずして一時失徳のとありしといへとも蓋し大功を爲すものハ細瑾を顧みさるの致すところか其後千七百九十三年の霜月九日に至り乱黨の手に捕へられ終に斬刑よ處せられぬされども夫人ハ聊か死を怖るゝの氣色もなく刑場に臨て從容自若長大息して曰く嗚呼自由よ古今汝の名を藉りて罪を犯せに至りたるもの世間幾人ぞやと呼べり以て夫人の尋常才學ある婦女と異にして且豪勇なるを見るべきなり

○紅蓮女史の傳

奥州　漁婦寄稿

奥羽觀跡聞走誌に云ふ紅蓮澌脱者所出松嶋絶品也以秔粉而爲餌和豆粉而爲團推之如麪其澌如紙經巳七寸餘其色青黄味亦甘美他所倣之不成と抑もこの澌脱ハ今も猶ほ仙台の地方に存じありてこうれんと稱へ而して斯く聞走誌にさえ出されたるハ其由來久しきことにて昔羽前の國象瀉の郷の豪士何某家に紅蓮と稱する一個の女ありけりこの女靜淑にして夙に學問を好み詩を裁し歌詠むとに巧なるがうへ容貌も尋常ならず年も二八の春の頃奥州松嶋の住人掃部小太郎正信に思ハれて丌が許に嫁くことの約を締べり然るに小太郎ハ幾程もなく二豎よ襲ハれて重き枕の床に就き針灸藥餌も其効なく終に黄泉の客となりければ兩親の悲愁一方ならず涙ハ富山の高根も浮きて流れ磯打つ波も溢れつゝ松が根浸を斗りなりしがさてあるべきにあらざれば此の由人して象瀉なる紅蓮の許へ訃け越せしに紅蓮ハいまだ交頸の契ハ結ばねど巳に比翼の誓をなせしか將來の事兎やせまし斯くやせまじと樂みに待つ甲斐もなく訃音を得て天に哭し地に慟き袖に涙を絞りも敢へず只管父母に別れをもとめて獨り遙々松嶋のまつ人もなき良人の家に心細くも辿りつきて舅姑に面會なし妾不幸して小太郎ぬしとハ夫婦の契ありつれどいまだ其禮をさえ行ひ待らずして斯く黄泉と隔離たるハ誠に口惜ふこそ存ずるなれされども生命ハ天の定むる數とやらん云ひなせば歎くとてせんかたなし今よりハ妾故夫に代りて御兩親に孝養をおしまた一つにハ故夫の菩提をも吊ハんと請ければ掃部夫婦もいたく其殊勝なるに感心せしかど年紀尚ほ若くして殊に容色さえ美麗しければ昔の花を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

咲のせば果てず移るに齊しきものから切に歸國の上更に夫を擇びて嫁がれよと勸めたれども鐵心石腸すこしも動かず遂に舅姑も強得ずして家にとゞめしかば紅蓮も欣ぶこと限りなくこれより朝夕舅姑に仕へて孝を竭し故夫の菩提を吊ふことこれかれ暫くも怠りなかりしが年經て舅姑も故人の群に入りたれば今はこれまでなりと翠の黒髮截りすてゝ紅蓮尼と稱し松嶋瑞巖寺の南に小かなる草の庵を結びてこゝに住み夫の煎餅を燒きて里の童女等に鬻ぎ开を生計の料として掃部一家の後を吊ひ一生不犯にして身を終りしはまたと得難き貞婦にこそされば其煎餅は松嶋の名產中に數へられ今猶は其庵を結ひたるの蹟なりとて心月庵と云へる寺の殘り居るなど全く紅蓮貞操の餘澤にてやあらん歟良人小太郎の夭死を歎きて當時口吟みし三十一文字の歌あり

咲のしな今はかたみと詠むへしのき端の梅のあらん限りは

○和書講義

つれ〳〵草

椎本主人述

第十五段

いづくにもあれ。しばし旅だちたるこそ。めざむるこゝちすれ。其わたりこゝかしこ見ありき。ゐなかびたる所。山里なッどは。いとめなれぬ事のみぞおほかる。都へたよりもとめて文やる。其事かの事。便宜にわするなッど。いひやるこそをかしけれ。さやうの所にてこそ。よろづに心つかひせらるれ。もてる調度までよきはよく。能ある人。かたちよき人も。常よりはをかしとこそ見ゆれ。寺社なッどに忍ひてこもりたるもをかし

〔全旨〕此段は。旅行中にての。人のたしなみ。心もちひをいひて。つきに。寺社に參籠したるをりの。氣樂なるをいふ。

〔語釋〕めざむるこゝち　氣のつく心なり○ゐなかひ　田舍めくの意なり。ぶりの反びなり。びはめくに同し。○めなれぬ　見なれぬ珍らしき事○調度　道具○能ある人　藝能ある人

〔講解〕いづくにもあれ。暫時にても。旅行する時は。萬事に氣の付こゝちのするもの也。其行くさき〳〵。こゝやかしこと。見ながら行に。田舍めきたる所。又は山里なんどは珍しき事ばかりにて。○都へ便をもとめて文通する時。いひやるべき事などを。わすれたるなども。却

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て興あり。さやうに、都遠きあたりへ行きたる時ハ。別段万事に心づかひせらるゝものなり。又今まではさのみに思はぬ。我も川道具も。能き物ハよくみえ。又藝ある人。姿よき人も。都とちかひ。田舎にてハ一きハめだちまたの都うちにても。寺また社に。人しれず參籠したる折も。万事うちすてたる心ちのして。面しろしとの意あり

◎稗史小説

○英國小説 剪燈情話　第二回續

少佳人懽得良偶　寒教師苦纒戀情

排士ハ佳人愛格と非利との二個の客を送り出で歸り來るや否門を閉で獨り一房の椅子に倚れば猶はこれ舊に依て形單に影隻なり冲凄の光景なるを免かれず凡そ人たるものハ其の欲する所のものを見ざれば則ち心動かず之れを譬て申さんに隱逸の人の山林に藏匿て世上の事を知らず其の心混々沌々たるも都會の人に遇ふて世上の繁華人事の新巧を談するを聞けハ忽ちに心の内幾分かの活絡あるを免のれざるが如く且つハ既に世間の人が名利を、争ひ奇巧を闘ハす等千種万様の事体を聞き知るときハ我か心の朽木死灰の如く竟にこれ廢物なるとを覺り得べし然れども轉じてこれを考ふれば人の此の世に生るゝや一人よハ必す一人の幸福あれば天命に循ひ人事を盡し此の幸福を全ふそべし何ぞ山林に避居して區々困窮を受くるをなさんや排士ハ此の時しもこれを思ひ彼を想ふて心の中に七上八下と正にこれ自ら這の一大論題を解釋するの地に望めり抑も他ハ久しく山橋の僻陬に居るとなれバ心志ハ已に鐵器の隈なく銹を生せしと一般なりしに忽ち血氣抜群心力超衆の非利に遭遇したために幾分の感化を受くるを免のれす譬へハ鐵の銹を忽然跳ひ磨きて光彩を生し一個有用の器となるに異ならす即ち排士ハ一夜燈下に孤坐して睡に就くを得ず自から思ふやうわれも亦これ一介の人間なり何んぞ我れの薄命にして非利の福あるよ譬へて見れば我れハこれ一顆の蔬菜にして非利ハこれ一莖の仙艸に均しく而してまた細かに佳人の眉目態度を想ひやりまた思ふやうハ自己も年犯卅盛になり居れば正に宜しく一の佳偶を求め時に及びて行樂むべきも但しこの僻境にあるときハ佳人に遇ふに由なく或ハまた佳人をして我か面前よ在らしむるもまたこれを娶るべきの道もなし如何ハせんと思按に暮れ心中忽ちにして火の如く熱し氷の如く冷やのよ其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如何にしてこれよろしきやを知らざりけり且説山橋村の人々ハ排士の零止の日前に比ぶれハ同じからずして衣帽も亦た清潔なるを見て訝り疑かハざるものなく而じて近隣の富家豪戸も繽く他と往來そるもの多きに至れり中に就き山橋村を距ること遐英里の處に一の富豪家あり开が家にハ両女兒ありて長女の方ハ美吉と云ひ芳紀已に二八にして頗ぶる姿色あり一日門外に在りて遊玩ありしに折しも排士の通りかゝりて瞥見る所となるまれ將た過世の塵縁にやあらん排士ハ一見の後胸中にこの女兒の面影を忘れ去ること能ハず山に遊び友を訪ふを名としてハ常にこの女兒の家に至りて小憩し遂に其の家主と相親しみてハ寒喧を叙し世事を談ずることを得るに至れり

◎女紅

○絹布つやばりの法

絹布のつやばりハ白胡麻五分すりて之れを布にて漉し其の汁をもて粘をひくべしつやよく出て地よくしつとりとなるなり

○鹿の子をのす法

かのこしぼりのわたらしきをのすにハ釜に湯を沸し両方より引ばり其の湯氣にあてゝのすべし釜の縁よハ水氣なきやうにして其縁にすこし磨れるやうにしまた絹の表面を上の方へあてゝのすなり

○柚べしの製法

柚の皮を去りて實ばかりなるを十箇に胡麻二合味噌五合餅米の粉二合唐辛子少量を摑合せ柚の皮へつめてよく蒸し其の後其のなかへ胡桃かやにても入るべし

○色黒き人を白くなす法

色の白きは七難のくすと俚諺に云へる如く男兒と雖も色の黒きよりハ白き方が宜しく况して婦人の如きハ白きが上にも白からざれば下卑て見ゆるものなり故に婦人ハ毎夜冬爪一個を竹刀にて皮を去り切り片ぎて酒一升五合と水一升とを以て煮爛かし其の滓を漉しさりてまた煮つめて膏となしてこれを塗れば色つやありて白くなること恰も白玉の如し

○髪のねばりたるを直す法

髪のねばりたるにハ威靈仙十莖側栢葉二枚牙皁三莖黒牽午二十粒黄柏皮一片を細かにきざみ絹のふくろにいれて胡麻の油よひたし髪につくるときハよくねばり氣をさりてつやよくなること誠に妙なり

○乳の出る法

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

牛乳よしと雖もいまだ百日たらぬ小兒にはあまりよろしからぬなり矢張母の乳の方が相應すると云へりされバ産後に乳の出ざるときは如何にも難義なるものなれバ充分足るやうになければ其小兒こそ誠に不愍なり而して其の足るやうにするには當歸白芍藥桔梗川芎白茯苓天花粉木通穿山甲の八味を等分にして尋常の藥の如く煎じもちゆべし即効ありと云ふ

○綿羅紗の製法

綿羅紗を織るには木綿一匁羊毛五分これを縦とし木綿二匁羊毛二匁を緯の糸とし常の如くに織るべし卸して後水にて臼に入れて少し搗き米とぎ水即ち白水に入れてたゝけば毛自然に出るなり出ざるには海羅をよくときて布に入れよく揉むべし綿羅紗となりて舶來品よりも却て上等のもの出來になり

◎御伽草

○無脳

去る處に一商買あり平日商法上の事にて少しく思慮を費すべきものあれば隣家の學者先生の許に到りて其の思考を借り居りしが此の程學者先生は不圖脳病にかゝり百方醫療を盡くせども其の甲斐なきに家人はいたく心配し懇ろに醫者に頼みて何とか早く全癒するの法を施されたしと云へば醫者は去ればなり此病は生人の脳を取りて藥に配せば直に癒ゆべきも其の脳を得るに難ければ如何ともすると能はず手を束ねて死を待つより外なしとの答に家人は商買が常に思考を借りに來りて此の御恩は死するとも忘れまじくまた死しても報ひずには置かぬと云ひ居りしを思ひ出し那の人ならばこちらより常に脳を貸してはあり殊に報ゆると云ひ居れば相談して見んとて呼んで誠に近頃御相談し悪ひ事ではありますがあなたには豫ての貸しもあることなりどうか其の脳を貸して下さる譯には參りますまいか實は宿の主人が藥に致しますからと聞て商買は吃驚したれど拔からぬ顏してイヤどういたしまして御安ひ御用ではありますが豫て御主人に拜借します通り私には藥にしたくも全く脳はありません

評無脳者則是馬鹿也馬鹿而有此好回答有脳者却爲馬鹿所馬鹿不亦馬鹿々々乎世之不馬鹿者宜馬鹿視勿被馬鹿

○考物二題　　濱松　矢部草子

熊あり火を取つて橙の木を燒く　（二字國名）

人あり汝の生國は如何なるやと問ふ妾答へて二十三國なりと云へり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○同　淡路　星合　榮子

如何なる鳥とも知れず九羽の鳥翔り來つて遂に一羽の鳥に化せり而して此鳥ハ能く鵲の空巣に居を占るものなりと云ふ

○廿六號考物解當者ハ第一(牡丹)栃木多田末智姐春木町大野生西久保かけ艸西京山科田鶴姐茁町鶴田清姐京橋堺美代姐第二(美濃)多田末智姐のけ艸大野生山科田鶴姐田鶴清姐伊勢櫛田元姐二十三號謎(くれまへかふ飾りまつ)濱松矢部革姐廿四號西洋隱語(紙鳶)矢部革姐備后藤井思美姐廿五號考物(かしは)大野生のけ艸

◎古今雜話

○西洋女禮一斑　(前號の續き)

儀式上訪問の返禮ょ至るときは丁寧に名刺を入り口にて出し奥へ通ることあるべからず然れども家内無事なるや否を問ふことを忘るべからずまたその家の婦人に姉妹令孃等あらば名刺の角を折りかけて一同へ訪問する意味を表すべしと雖ども極丁寧にするときハ一名へ一枚づゝの名刺を出すを以て優れりとなす

訪問の返禮か他所へ出立の暇乞ひあるひハ他所より着したる知らせのときを除く外ハ使を以て名刺を贈ることハ丁寧なる禮儀にあらざるなり

暇乞ひの名刺にハその角にピー、ピー、シー(P.P.C.)の三つの頭字を記るすべしあるひハピー、ディー、エー(P.D.A.)と記す人もあり

名刺に自分の姓名を自筆にて書きたるハ誰人のにても情欸を顯ハし有名なる人の自筆の名刺ハ甚だ珍重せらるゝものなり善行才學を以て名ある人の名刺ハ自筆の石版摺りと雖も人これを珍重して所有すといへども悪行ある人の自筆の名刺を所有る時ハ更らにその價ひあらざるのみならず人の笑ひ草となることとなり注意すべきことなり

不幸に遇ひ人の家へ悔みに至るときは必らず不幸のありたるより一週間内に訪問すべしまたこの時面會を乞て内に入るとハ親類あるひは極めて懇親ある友人の間柄に限ることにてその他は大体狹き喪縁のある名刺を出し置くに止まれり

不幸のありたるのちその家族に初めて面會するときは略喪服を着するあと禮法なり

蝙蝠傘はかならず入口におくべき事なり

又早問をなそときハ犬を携へて人の客室に入るべからず

○古の女帶

貞丈が雜記ょ云ふ古の女の帶今の帶の如くはば廣きものにハあらずふくさ帶などいふ物なしみなさげ帶なり貞衛云さけ帶

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ裳袴といふ物の帯と同こしらへなりひとへまわりなり中に鳥の子の紙を入る上臈ハ惣様金みがきなり其の下ハこしわけとて腰と色をかへらそ紅梅などに染めて前に下る分金みがき也云々裳袴とハ公家上臈装束の上に裳といふ物をめすなり裳をめす時着給ふ袴を裳袴といへるなり緋の袴の事なり其袴の下にする帯と同しこしらへよさけ帯を作るなり金みかきとハ一面に金にそることとなり前に下るとハ前にて結び下るなり此帯の地ハあつ板うそ板なるべしあつらへて金みかきよもこしあけにも織する成べし條々聞書に云古帯ハ六つわりにてハ慈照院殿御代より八ツわりになりハ人に不寄ハ云〻六わり八わりハ一幅を六にわり八にわるを云ふ人に不寄とハ貴賤男女よ寄らざるなり

〇日本女禮のあらまし

行酒飲食の部つゞき

(下輩盃受け様)下輩の盃を受る時ハ臺を引寄せ右の手にとりて左の手に移し右の手を添へ尚ほ輕きハ隻手にて目通迄捧けうなづくのみ尚また下輩へハ盃を取り直に酒を受けても苦しからす

(同輩盃受け様)　同輩にして盃を受る時ハ三方の腰の中程に手をかけて引寄せ右手をもて盃を取り左手よ移し右手にて三方を少し脇に寄せ右手を添へて胸の通り迄持上け頭を少し低れて禮をなすべし其時盃をさしたる人ハ一禮するなり酒を受るにハ酌人の來りたる方の隻手に盃を持て受るべし

(上輩盃受け様)　貴人の盃を受る時ハ先つ三尺程進み出て酌人の來るを待つべし酌人來らバ其の方に向ひて盃を取下し具られたき様申すへし酌人盃を取下さば兩手に受けて左手に移し右手を突き貴人の方に向ひて右手を添へ兩肘を突き頭を低れて敬んで戴きまた右手を突きて酌の方に向ひ酒を受け又貴人の方に向ひて兩手に盃を持あけて飲むへし酒を飲むときハ貴人の前にても少し頭をもたけて呑むものなり

(神酒戴き様)　神酒を戴くにハ土器に受けて後戴きて飲むべし下を捨てず左の掌に受けて嘗むることなり

(貴人の酌を受る心得)　貴人の側に銚子と盃を置きて手づから酌取りて酒を賜ることあり其時にハ側近く進寄りて盃を取り敬んで酒を受け少こ退きまた謹んで戴し上盃を銚子のもとに置き拜禮して立つものと心得べし

〇金言摘錄

知者不言言者不知　老子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

六親不和有孝慈國家昏乱有忠信　同上

呑舟之魚碭而失水則蟻能苦之　莊子

以財交者財盡而交絶以色交者華落而愛渝　戰國策

雖有智慧不如乘勢雖有鎡基不如待時　孟子

積羽沈舟群輕折軸

◎群芳詞苑

○溪螢　宮中御兼題　典侍　高倉　壽子

岩間ゆく水の流れをしたひ來てみたにかくれに飛ふほたる哉

○同　權典侍柳原　愛子

音はのり聽くもすゞしき谷かはのなのれも見えて飛ふ螢かな

○同　權掌侍万里小路艮子

柴人のかへるさ暗きたにのけのしるへ顔にも飛ふほたるかな

○田家夏月　東京　松廼門みさ子

賤の女かすゞみかてらまいなこ捕るそても短き夏の夜のつき

○東樓雨中　二首　濱松　矢部　革子

新筠抽梢與欄齊。迎捲疎簾綠滿溪。知得分秧候在近。簑翁衝雨耦田畦。

巽抱翠巒樓枕溪。水光山色眼邊迷。鳴鳩縠々東風冷。喚起村々雨一犁。

評二首俱妙絶

○讀源語　江馬　細香女

瓠花深巷見嬋娟。一扇相思兩世緣。香盡莚空根不絶。又抽桑蔓故纒綿。

○小督　菅　茶山

出宮潛避主恩專。全屋偏愁黄霧纒。宛見法輪三五月。照來一曲想夫憐。

○牽牛　古賀　精里

誤呈鼻孔任人穿。去々來々苦掣牽。牛飼片時容我睡。平原日暖草芊緜。

○閨秀新品

○苗代水　西京　上田重女

八橋のくも手にみつをひきかけて苗代つくる末のさとひと

○同　櫻川町　かけ艸氏

しめはへてこゝろ〳〵の神まつり苗代水にかけうつすらむ

○暮春鶯　備后　藤井惠美子

昨日まで馴れにしもなに別れは告けてかなしく鶯のなく

花はちり春はのこれと鶯はこゑをしふりて尙はのこるらな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○待郭公　　遠州　木下節子

うつき垣てる月影も夏みへて初ほとゝきすいよゝゝ待たるゝ

○同し題　　かけくさ氏

やよいかになのめもはるゝ夕月夜忍ひ音もらせ山ほとゝきす

○同し題　　藤井惠美子

よい一夜まちわかせとも郭公たゝひとこゑをとつれもなし

○女生徒　　同し人

さく時の思ひやらるゝ蕾かな

○金魚　　東京　樫村瑛子

金魚賣る聲に啼きやむ兒の寐覺

○綠陰　　木下小桃女史

綠樹重陰染繡帷。獨攤源語愛涼颸。休言白眼看人世。閒倚庭柯顏耐怡。

○花下步月　　筑後　松本花子

淸馨滿袖與應憐。半夜氷輪帶淡烟。已經櫻村又桃巷。徘徊不厭落花天。

○同　　濱松　矢部華子

一抹淡煙數樹櫻。春風園裡夜三更。暈月朦朧明天雨飽。愛淸香踏影行。

○定子の君の嫁せ玉ふを祝ふ文　　吉村田鶴

一筆申上まいらせ候梅雨の天にて日々鬱陶しく如何御暮し被遊候や私事も先頃よりせひには伺ひ申上芽出度人生の大禮を終らせ給ひしは悦び申納度と存じ居候處時候の不順もゑの圖らすも二豎に犯れ永き日も床の中にて暮し居候事故今に失禮能在候さためて此程は最早はありつきの事と御うらやましく存候餘に久しくは尋も不申上候儘ぶしつけながら文しては悦び申納まいらせ候無禮あるもとのは厭なふ此上ともは交りの程願上まいらせ候先はおんめもじの節とあらくめて度かしこ

○廿六廿五及廿四號數學答式

$$9 \times 10{,}5 = 1 \times 1 = 738\frac{9}{32} = x$$

$$x = 7.81\frac{1}{4}$$

七圓八十一錢四分の一　　東京　富安芳子

下總　森　高子

$$0{,}5 = 1 = 8 = x$$

$$x = \frac{1 \times 8}{5} = 16$$

拾六圓

$$30 = 12 = 56 = x$$

$$x = \frac{12 \times 56}{30} = 22\frac{2}{5}$$

二十二日五分の二

備后　藤井惠美子

○寄書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○身体教育を忽棄す可らず

白石本城よし子

心意と身体とは互に親密の關係を有するものたる事は固より云ふまでも無き事にて理論上より云へは身体は有形なるに反して心意は無形にして自覺あり身体は分割するとを得べきも心意は分割する事を得ざる等其他種々の差異あるも其關係に至りては云はゞ心意は則ち身体々々は則ち心意とも云ふべき程にて片時も孤立し能はざるものたる事は古來心理學者の普く唱道する所なり「カーペンター」氏著「メンタルフイロソヒー」に此事に關する事實多く載せたり今一例を提出すべし

英人サー、ヘンリー、ホルアンド氏嘗て日耳曼巡視官と共にハアス山中なる二所の深坑に下れり坑内に止ると各々一二時間程なりしが坑内炭酸瓦斯を含めるをもて身体疲勞し曾て熟練なりし日耳曼語を全く忘却し全行の日耳曼巡視官と接話すると能はざりしが滋養物を喫せしより漸やく身体の疲勞を恢復すると同時に右の日耳曼語をも併せて復後し得たり云々

右は唯々疲勞せしのみなれども其心意に影響する此の如し身体教育にして苟も其法を得ざりしならば其狀果して如何ぞや然るに本邦の慣習として身体教育の如きは毫も意に介せず却て身体の健康と心意の健康とは並行せざるものゝ如き妄想を抱けり（此事啻に本邦のみならず西洋にても古は斯る妄想を抱き心意を練習せんには身体をして枯死せしめざるべからずとの事を説て止ざりし例あり）爲に自然に賦與されし正經なる才識も其功を見るを得ざると豈にまた嘆はしきの至りならずや故に喫飯の時間、制限、作法及食物の性質種類分量氣候の變化に對する關係、衣服の性質、家屋の通氣より就業の時間運動の時間睡眠休憩の時間等に注意し全体其宜きを得ざるべからず又本邦人の外容たる背骨灣曲し脚形弓の如く其步行するや蹣跚として宛も醉漢の千鳥足を學ぶが如きは能く諸卿の目擊して知り給ふ所なるべしこれ本邦人に取ては左まで異まざれども外人より見る時は實に奇怪千万の思をなすなるべし幼稚の際乳母の背に負ふと烈しく行儀作法を督制して端坐せしむる等はこれ等の原因をなすとの事は大鳥圭介先生の坐禮を廢えて立禮となすべしとの妙案中に詳かなりかゝる事は唯外容の醜美のみの事にて矯正するともせざるとも聊か身体の健康には關せざるものゝ如く思はるゝ人もあるべけれども決して忽視すへからざるの事たり世の親愛なる令閨令孃よ幸に妾が老婆心を無にし給ふなかれ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

岩神正矣君編輯「ワシントン」「グランド」二氏石版肖像入
米國前大統領 **虞蘭將軍全傳** 平假名附前同斷 洋綴美製全一册定價卅五錢

○世間其形小よして貴重なる者あり寶玉是れ也此書小册子と雖ども將軍が一生の經歷功業を羅述して簡にして要を得たり故に一たび出板して忽ち初板數千部を賣盡し未だ二月ならずして **再版** の榮を得たり凡そ將軍が幼時、出身、浮沈、南北戰爭の紀事軍略、大統領の當撰、政略、失策、世界漫遊、將軍家の落魄並遠逝葬式に至るまで將軍が自著中より抄出せる上よ他の近代史と參考して輯録せる者なれば將軍の一代を知らんと欲せば之に加る寶玉なかるべし尚ほ初版に倍して愛顧を乞ふ

西森武城君編輯
● 生徒必携 **作文獨稽古** 鼇頭いろは分字類
和製中本全一册 定價貳拾貳錢

七條峰太郎君編輯
● 女子必携 **女子作文楷梯** 鼇頭作文要用字類
和製中本全一册 定價貳拾貳錢

從前小學校の生徒に文を敎ゆる男女一樣なるの爲め女子の爲めに不都合多きハ敎育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を敎ゆる好書なきか爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能ハず今此書ハ專ら女生徒よ婉曲にして通ず易き作文を敎へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めよ編著せるものにて作文獨稽古と共に小學敎員及び生徒諸君の錦囊たる書なり

堀内正路著
○ 千家正流 **茶の湯客の心得再版** 全一册
細圖入白紙摺美本
舊定價四拾錢 改正廉價金卅五錢

此書ハ千家直傳の免許を受たる堀内大人の新著にして先きよ出版致候處江湖の喝采を博し發賣致し幸いに數千部を賣り盡し今般 **再版** 仕廉價を以て茶道を好む諸君ハ一本を備へて千家の奥意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

發兌 九春堂
賣捌 穎文舍

○ **小學生徒運動歌** 定價五錢 全壹册
右ハ小學生徒たる者唱歌するに於てハ其益少々ならず
積文舍

○ **明治英名傳** 正價 郵税共金三十錢
積文舍

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 積文舍
持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌賣捌所

大賣捌所 東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂

同 神田區雉子町 國々社
同 日本橋區新葭町 艮明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殻町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂閣田
同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立與舍
山梨縣甲府常盤町 内藤傳右工門
蓺州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房
神奈川縣下横須賀旭町 大塚部喜

驛遞局認可